

活動名 世界に屈しないグローバルな子どもの 健全育成支援活動	団体名	ふれあいの森なんでも工房
	地域	山口県周南市
	代表者	会長 西林 稔
	支援金額	32万円
活動概要		
<p>周南市所有6万坪の森林公園(ふれあいの森)に一部を借用して「元気なこども元気なおとなを育む森」をコンセプトとして、総てを市民活動で取り組んでいます。平成20年夏に初めて挑戦しました「世界学生と地域の子どもたちとの交流」が想像を絶する成果を得たことから、今後も世界各国学生を招き、①地域の子どもたちの健全育成 ②地域の皆さんとの交流 ③県内学生の交流を目的に、世界に屈することない・グローバル化に対応できる子どもの健全育成支援活動を実施しました。</p> <p>◆実施時期 2011年8月19日～8月30日(12日間) 周南市須々万本郷字西ケ原1153-1ふれあいの森を中心として</p> <p>◆参加人数 参加学生108名(カナダ1・ロシア1・韓国3・日本4の9名・12日) 参加団体 13団体・参加総数663名(子ども305名・大人358名)</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 663名</p>		



「スーパー竹とんぼづくり」体験
木工・木の実工作など様々のものづくりもしました



竹でつくる「バームクーヘン」
子どもと一緒に体験交流



ほとんど毎日「ピザづくり」
自分で働かねば食べられないのが森のルールだ



日本の食事づくりと琴の演奏体験
さすが…少し練習したら「さくら」アンサンブル演奏

◆実施に伴う効果

団体

子ども団体を中心に受け入れた結果、当初の思い通り①子どもたちの物怖じしない交流、家族や世話役さんとの交流が図れた。

地域

歴史ある地区の八朔祭り参加の子ども会神輿に支援参加し、海外学生の参加で地区評価が芽生えてきた。また、公民館活動による婦人教室(銭太鼓)、お寺訪問による仏教体験・本格的な野立て・琴の演奏アンサンブル体験・児童クラブ訪問交流(英語で歌おう・国を知ろう)など想定外のトリガー的發展に進展

活動推進

- ・活発に地域社会へアピールすることなく「地道に・口コミで浸透する」で取り組んでいく戦略が見通してきたと自負。
- ・工房活動の新しい分野(グローバル化)への道が開けたと自負。
- ・次年度からは、様々な児童クラブ団体との協働に期待でき、将来的には行政との協働に繋がると確信自負。

◆苦勞した点

予算

貴財団支援に感謝。生活支援が想像外に負担となった(電気・ガス・電話等々)特にIT通信設備がないことから学生には積極的に親元への電話を促し負担。

PR

口コミPRで充分と認識しており、苦勞はない。

参加者

東日本震災の風評影響からか、海外学生応募が少なく、開催できるか心配した。また、現地到着・離散時間が守られず歓送対応に苦慮。

地域理解

夫々の活動団体指導者を中心に参加協力ができてきたことが、想定外の感謝であり苦勞はないと自負。また、口コミ評価を耳にするも・影口がないことが最大の感謝と考えている。

◆今後の課題・發展の方向性

課題

海外学生募集の支援を国際教育交換協議会(CIEE)・山口県立大学国際文化部にお願いしているが、当面の間は、このネットワークで取り組むべきであるが、地域の大学(徳山大学など)とのネットワーク化も検討する必要がある。

(特に今回は東日本震災の影響が大きいと想定し、次年度の結果を見たい)

發展方向性

取り組むことには問題ないが、内容的には、様々な方向性があると考え。欲張ることなく一つずつ進展させたい。次年度からは、児童クラブとの協働を関係部署と調整し、新たな取組に發展できればと計画したい。但し、基本は、ふれあい森活動拠点での協働としたい。

◆活動を終えての感想・意見等

- ・昨年、新しい活動として試験的に挑戦し、本年度から貴財団の支援を戴き、本格的な活動として取り組んできました。結果は、事故もなく無事終了したこと、昨年と違い、工房仲間も自信をもって支援できたこと、様々な分野の指導者の支援協力が口コミで拡充してきたことなど、嬉しい成果となった感謝しています。
- ・活動が地域社会に浸透し・評価されるまでには、地道な活動以外にないものと認識し取り組んでいきたいと考えています。IT・広報・マスコミでの活動も考えられますが結果は、社会に振られることと認識しています。社会が認識されたときは、核たる基盤ができて活動であり・また・活動拠点でありたいと考えています。